

「水都おおさか森林の市2011」の実施結果

平成24年1月12日（木）

水都おおさか森林の市実行委員会

I 概要

今年、「2011国際森林年 暮らしの中に木づかいを 活かそう日本の森林」をキャッチフレーズに、都市と森林を結ぶ川の役割、森林・林業の大切さ、木材利用の重要性を都会に住む皆さんに伝えることを目的に10月8日・9日の2日間開催しました。今年も2日間とも晴天に恵まれ、延べ約2万5千人の方々が来場しました。

2011年は「国際森林年」であり、「森林の市」を国際森林年記念イベントとして位置付け、ちらし・ポスター・パンフレットに「国際森林年」のロゴマークを使用しました。

「国際森林年」の今年も、各実行委員による事前のPR活動によりNHKでの放映をはじめ、産経新聞、朝日新聞、読売新聞でも取り上げられ、また、北区広報誌「わがまち北区」、大阪府広報誌「府政だより」、「電車&ウォーク」などに記事を掲載していただき大きなPRとなりました。また、実行委員団体においては、定期的に発行される機関紙への記事の掲載や、会員向けニュースにチラシを同封するなどそれぞれ努力しました。加えて、本年度12回目となる「天満音楽祭」（10月9日）との同時開催、「おおさか山の日」協賛イベントとして開催したほか、「都島区民まつり」へ出展し「森林の市」のPRに努めることができました。

今年の出展・出演団体数については、昨年同様、出展用資材のレンタル料を全て有料にし、ステージの出演を無料出演の方のみに限定をしましたが、計71団体に申し込んでいただきました。団体数は、昨年66団体より微増、一昨年の87団体よりは減少となりました。【資料1：出展・出演者一覧表】

なお、チラシ・ポスター・パンフレットともに昨年のデザインを再利用して作成するなど、経費節減を図りました。

II 事項別結果

(1) オープニングセレモニー・ステージ

昨年に引き続き屋根のあるOAP広場前で、平場のステージを設営しました。1日目のオープニングは、大阪市立扇町総合高等学校吹奏学部の皆さんの元気なマーチングパレードでスタートし、各実行委員会団体代表の列席のもと、最初に実行委員会会長挨拶、次に副会長による「大阪締め」で力強く開幕しました。

司会者及びスタッフ一同スムーズな進行に努めた結果、予定していた14団体全ての方に発表していただくことが出来ました。

また、1日目の最後には実行委員会が共催した「グループ対抗里山デジカメ選手権」の表彰式を行い「森林の市実行委員会会長賞」を会長から授与しました。2日目午後の天満音楽祭については、天満音楽祭実行委員会のスタッフが担当しました。

ステージの時間帯によっては観客が少ないときがあり、出演者同士の協力等集客アップにむけ対策が必要と考えられます。

(2) スタンプラリー

来場者に会場全体を楽しみながら隅々まで回っていただくため実施したスタンプラリーには2日間で1585名の参加がありました。

実行委員団体以外のブースにも一部ご協力をいただく形で、ポイントを設定しました。景品については、苗木（マンリョウ、アセビ、ゴールドクレスト）を900本と「木づかい」にこだわり国産のスギとヒノキの間伐材を利用した小箱や鉛筆を用意し、参加者にもれなくプレゼントすることができました。

スタンプラリーを活用した「アンケート調査」により、多くの来場者の声をきくことができました。【資料2：来場者アンケート集計結果】

(3) 募金活動

会場内の5箇所に「緑の募金箱」を設置しました。なお、本年は「東日本大震災義援金」の募金活動も併せて行いました。

(緑の募金額：6,701円)

(東日本大震災義援金：2,861円)

(4) 出展内容

会場全体を、大まかに販売ブースと体験ブースとに分け、森林管理局側を販売中心、OAP・公園側を体験中心エリアとして配置しました。公園内は火気使用厳禁のため、調理する出展は近畿中国森林管理局前に配置しました。

出展出演団体からのアンケートでは、「森林の市」のコンセプトに沿った内容が実施できたかという問いに対し、「できた」が53.7%、「ほぼできた」が41.5%、「できなかった」が4.8%となり、「興味を持った方が多く訪れてくれた」「森や木のことを知ってもらえた」「地域の人と交流を図ることができてよかった」などが成果が得られました。

四国グリーンツーリズムのピザ焼き体験、会場内のあちこちで行われた丸太切り・マイ箸作りや本棚作り、ネイチャークラフトなどの体験ブースが人気ブースとなりましたが、それぞれの出展団体においても、クイズやプレゼントなどを取り入れ工夫をこらした出展となりました。来場者アンケートでも「クイズが良かった」等の意見がありました。また、端材や苗木・なると金時の無料配布、くだもの試食コーナーには大勢の来場者が集まり、特にJA全農とくしまのなると金時の無料配布は新聞に掲載され、記事の切り抜きを手にブースを探す来場者もありました。

熊本県大阪事務所のブースでは木製玩具を使った子ども中心の遊びの体験が行われ、熊本県のマスコット「くまモン」が登場し子供たちの注目をあびていました。

手頃な値段の木製品やふるさとからの果物の販売のブースにも多くの方が楽しそうに立ち寄って行かれる姿が見受けられました。

また、「来場者アンケート」から農産物など県の特産物や植木市、飲食コーナーの設置については要望が高いこと、「出展者アンケート」から今回丸太切りが会場内のあちこちで実施されたことから「可能であるのなら事前に調整したほうが良い」、「もっと出展団体を増やしてほしい」との意見があるなど、出展内容の調整等が今後の課題となります。また、「会場が広すぎる」「テントの場所によっては人の流れが少ないところがある」など意見があることからテントの設置場所等についても今後検討していく必要があります。

水辺では、日曜日だけの出し物でしたが、「キッズボート」と「ドラゴンボート」の乗船体験が行われ、日頃出来ない体験に参加者の皆さん一様に楽しかったとの感想をいただきました。

乗り場がメイン会場から離れた場所にあることから、参加者がかなりの距離を歩かないと行けないなどの課題が残りました。

(5) 運営関係

ア 本部

会場の中央部に本部を設置し、会場全体の放送、パンフレット配布、連絡、救護を担当しました。

イ レンタル資材

昨年同様、レンタル資材の設置・配置についてはレンタル会社に委託しました。

ウ 荷物の搬入・搬出

車両による荷物の搬入・搬出については、事故の未然防止のため専門の業者に委託しました。

短い時間内での搬入・搬出でしたが、業者の誘導に従い概ね安全に誘導できました。

エ 巡回パトロール

警備会社への委託に加え、実行委員会スタッフによる会場内の巡回パトロールを行いました。

オ 駐輪指導

会場内に設定した駐輪場に自転車を安全に駐輪していただくため、実行委員会スタッフによる駐輪指導を行いました。

(6) 事前のPR関係

森林の市のチラシを3万枚、ポスターを100枚作成し、実行委員会で分担して配布し、PR活動を展開しました。

来場者アンケートでは「森林の市」を何で知りましたかという問いに対し「チラシやポスターを見て」が併せて33.4%、「知人から」が14.8%、新聞・府・区からの情報が「15.7%」となりました。また、「どちらからお越しですか」という問いに対し「北区」27.3%、「都島区」30.0%の併せて57.3%となっており、地元地域へのPR活動が集客アップにむけて効果が高いと言えます。

本年広報部会の活動として、NPO法人自然と緑が地域の方の沢山集まる「都島区民まつり」に、「水都おおさか森林の市2011」のPR活動を兼ねて、チラシを持って参加しました。

概要にも記したとおり、大手新聞紙・大阪府政だより・大阪市北区広報への掲載などのほか各実行委員団体のホームページにもリンクをお願いするなど、多彩なPRの結果、現在ではインターネットでの「水都おおさか森林の市」の検索が容易に出来るようになっていきます。

Ⅲ 総括

「森林の市」は都市と森林を結ぶ川の役割、森林・林業の大切さ、木材利用の重要性を都会に住む皆さんに伝えることを目的に実施してきましたが、「来場者アンケート」から単に「楽しかった」40.1%にとどまらず「珍しい体験ができた」「森林や水の大切さがわかった」「自然を守りたいと思った」「地球温暖化について理解できた」の回答も少なからずあり一定の成果を上げることができたと言えます。

予算状況は依然として厳しい状態にあることから、収入の確保にむけ検討していく一方、支出の削減のため、実施内容を見直していく必要があります。特に支出のうち「音響設備費」「電源工事費」「車両誘導委託費」の外部委託費が総支出の53%を占めていることから、効果的かつ効率的支出となるよう検討していく必要があります。

実施に当たっては、本年は部会を立ち上げ、それぞれ実行委員の努力により、スタッフの確保、当日の運営などを行い実施する基盤ができました。今後の実行体制については、来場していただいた市民の皆さんに満足いただけるよう各部会の活動を充実させ、参画団体が企画・立案から準備・実行に力をあわせて行う必要があります。